

屋根雨漏り修理工事予定

平成14年6月18日

作成：桜田板金工業所



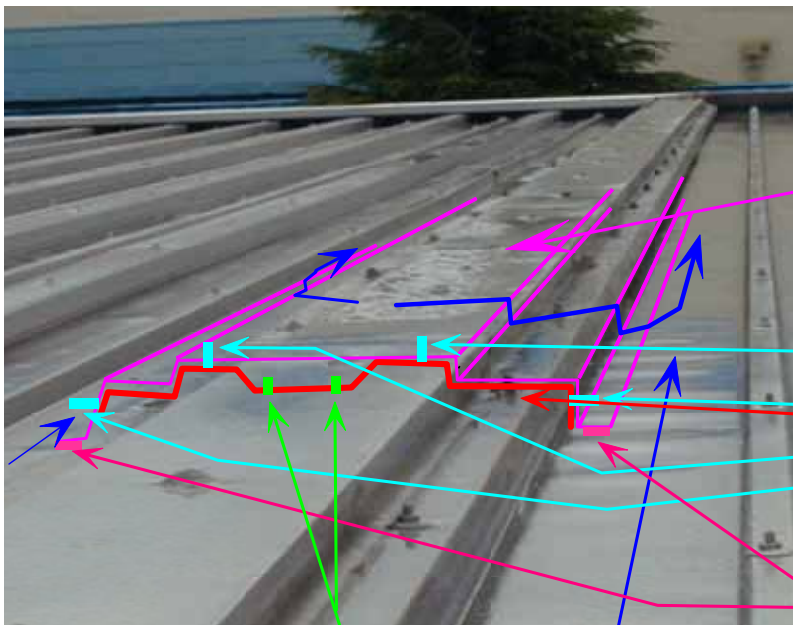
現在の納め状況

肝心の箇所（別建築物の取合い部）が伸縮・建物の動きに対して不適切なコーキングによる納めになっています。

コーキングが上から流れてくる雨水を吸い込み、また出しにくくしている為に建物の中に吸い込む一方になっています。（この状況では雨水は入って行くがほとんど屋外側には出て来ません）

現在屋根上での雨水流れ状況

相当量の雨水がコーキング部に集まって流れています。（既存カバーの加工が水を流すような形状になっていない為）



新規カバーの形状は既存カバーよりはだいぶ大きく加工して、雨水の流れも考えた形状に加工します。しかも接続部をなくしコーキングに頼る事なくします。

青線のように雨水の流れをスムーズにします。

直接既存カバーに取り付けない為に新規カバーの**取付下地**（FB-3×50）を取付、その下地に新規カバーを取付ます。

既存屋根との接点では、屋根からの雨水を既存コーキングに近づけない様、弾性パッキンを使用します。

取付金具の取り付け状況

取付下地だけを既存鉄骨下地に取付ます。

（この方法により、もしも新規カバー取付用のビスがゆるんでも直接建物に雨水が進入し無い為、安全性が格段にアップします。）

前回の報告書になかった部分について

前回三晃に提出した見積書には入っていなかった箇所です。

前回見積より3万円の追加見積になっています。

今回の新規取合いカバー取付箇所の最上部



コーキングが劣化してますので、修理してから
新規のカバーを取付けます。
(二時防水性を高める為)

新規カバーを取付ける前に既存コーキング部に穴を空け、コーキング部に空気を入れ入った雨水を外部側に出しやすくします。

約2mおきに穴をあけます。(計52箇所)

